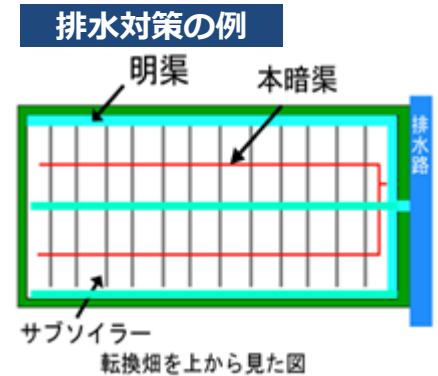


大豆づくりは土づくりと排水対策からスタート! 適期・適作業でがっちり収量を穫る!

排水対策で湿害から大豆を守りましょう!

- ◎ 耕起前に、圃場周辺に**明渠**を掘り、確実に排水溝につながります。
～排水溝につながってないと明渠の意味なし!～
- ◎ 水田に隣接している圃場では、地下水位を下げるために、圃場周囲の明渠は特に深く掘りましょう。
- ◎ 排水の悪い転換畑では、明渠だけでなく心土破碎や弾丸暗渠等を組み合わせましょう。
- ◎ 播種後は、圃場の中央にも深さ 30cm 程度の溝を掘る等排水対策は万全に取りましょう。



堆肥等の有機物を積極投入

- ◎ 大豆は地力依存が高い作物であり、子実生産の 90%以上を地力と根粒由来の窒素に依存しています。【地力や根粒活性が低下すると→稔実莢数や百粒重が減少して収量が低下】
- ◎ **堆肥等の有機物を投入し地力の向上を図りましょう。**
- ◎ **大豆の生育、根粒菌活性の最適 pH は 6.0～6.5 です。**
土壌 pH を確認し、石灰資材で酸度矯正を行いましょう。

【施用の目安】

堆肥等	堆肥 1～2t/10a または 発酵鶏糞 75～100 kg/10a		
石灰資材	苦土石灰 100 kg/10a または 炭カル 120 kg/10a		
基肥 (成分量)	窒素 2～3 kg/10a	リン酸 6～8 kg/10a	カリ 10～12 kg/10a

播種は「6月10日」まで! (播種適期 5月20日～6月10日)

- ◎ すでに、播種適期に入っています。初期生育を確保するために、適期内に播種しましょう。
- ◎ 薬剤の種子塗抹処理（殺菌、殺虫、忌避）を行い、播種量は 4～6 kg/10a を目安にしましょう。
- ◎ **適正な栽植本数を確保しましょう。**
【里のほほえみ】畦幅 75cm×株間 23 cm×2 本立て=約 12,000 本/10a
- ◎ 安定した出芽を確保するには、**碎土率を高め(1 cm以下の土塊の割合 70%)、播種深度が一定 (3 cm程度) となるよう調整します。**
- ◎ **干ばつ時にはやや深めの播種深度としましょう。**

ネキリムシの防除を徹底！



【種子処理剤の適用病害虫、防除方法】

薬剤名	適用病害虫	防除方法
クルーザーMAXX	紫斑病、黒根腐病、莖疫病、ネキリムシ類、タネバエ、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ、ハトによる食害忌避	乾燥種子 1 kg当たり 原液 8mℓ 塗沫処理
クルーザーFS30	ネキリムシ類、タネバエ、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ	乾燥種子 1 kg当たり 原液 6mℓ 塗沫処理
キヒゲンR-2フロアブル	紫斑病、タネバエ	乾燥種子 1 kg当たり 原液 20mℓ 塗沫処理

※クルーザーFS30 とキヒゲン剤を併用する場合は、クルーザーFS30 を処理後、よく乾燥させてからキヒゲン剤を処理する。

雑草から大豆を守る

◎雑草を抑えるには、適期播種による生育量の確保（葉のかげになるだけで光不足になり、雑草が抑えられる）、除草剤の組み合わせ、適期中耕培土が大切です。

【除草剤をしっかり効かせるためのポイント】

- ①**砕土率を高める** ②**タイミングを逃さない** ③**圃場の水分を確保する**

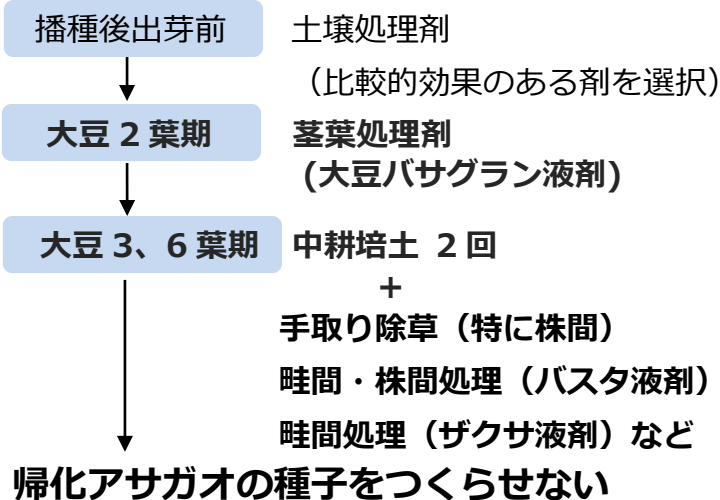
帰化アサガオ類・アレチウリに要注意！

帰化アサガオ類の防除は初期除草と初期生育の確保が決めて！

【帰化アサガオ類防除のポイント】

- ①つるになる前に防除 播種後2～3週間が勝負！
- ②大豆の草高が条間と同じになるまで、概ね2週間ごとに防除（除草剤・中耕培土）。
- ③大豆の生育を良好にすること。
- ④畦畔からの侵入を防止する。

【防除体系】初期除草・初期生育の確保が決め手！



マルバルコウ



マメアサガオ



アメリカアサガオ



マルバアサガオ

STOP！農作業事故！

～春季農作業事故防止強化期間中～

農作業は計画的にゆとりをもって！農作業事故ゼロを目指しましょう！